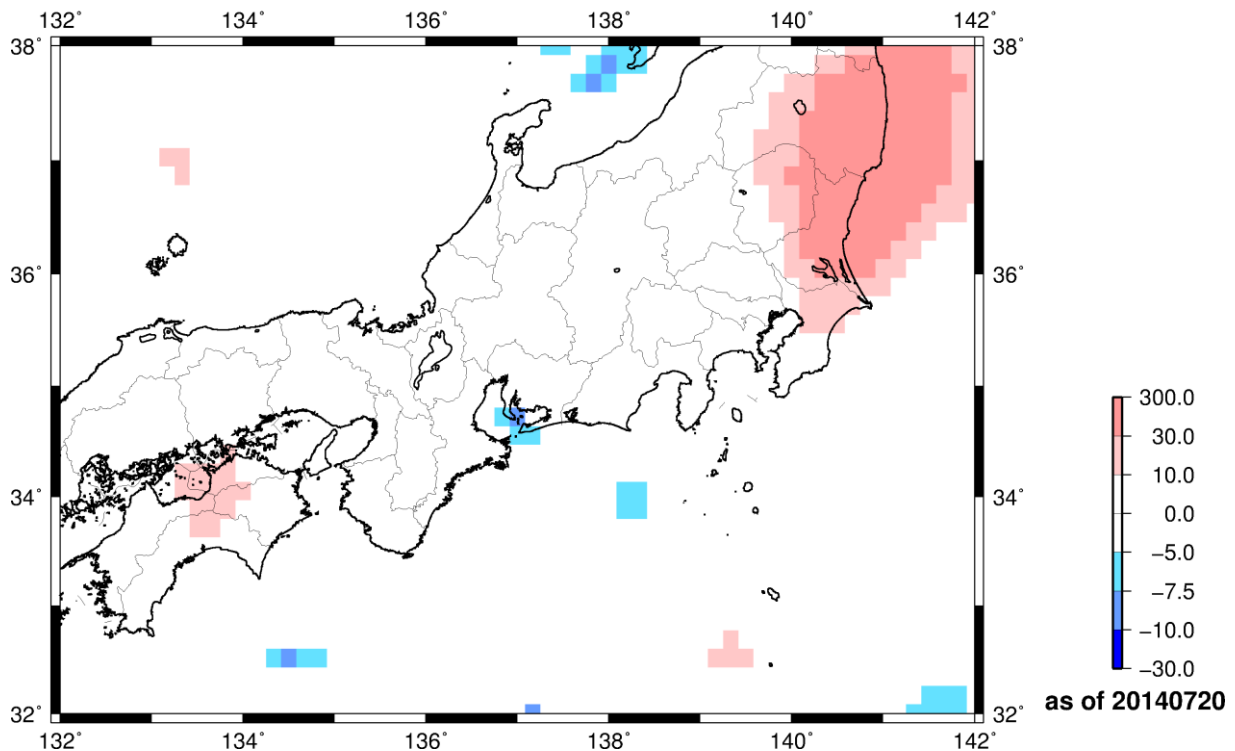
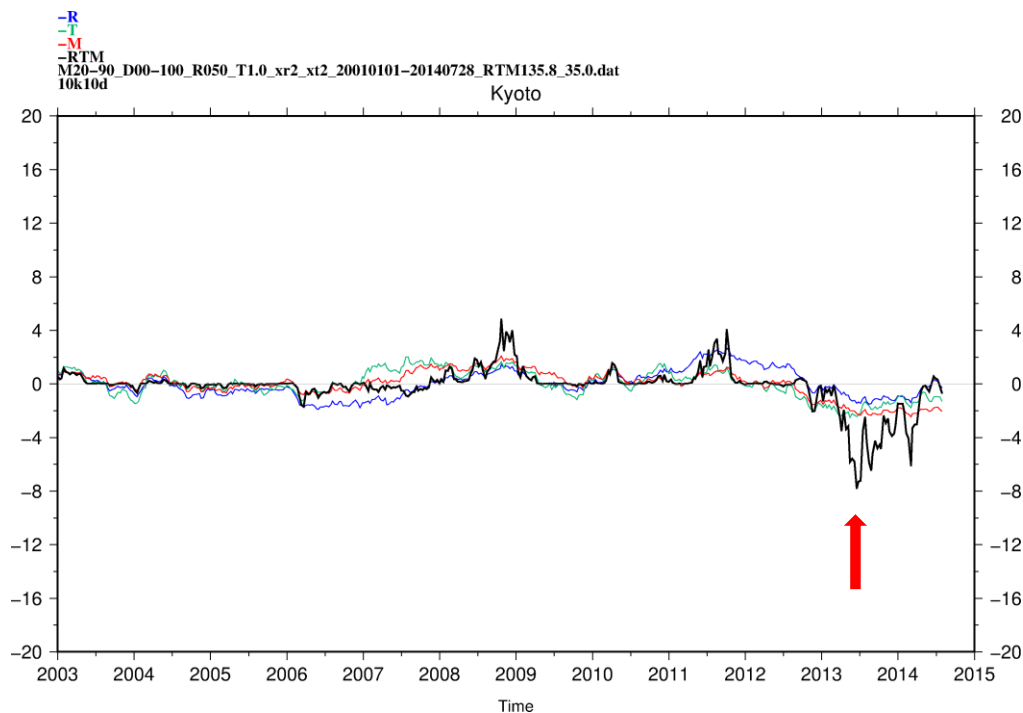


東海・中部・近畿地方の状況

これまでも度々お伝えしてきました東海・中部・近畿地方の状況、特に京都周辺の状況です。7月20日時点の最新の地下天気図では顕著な地震活動の異常（青い静穏化領域）は観測されておりません。

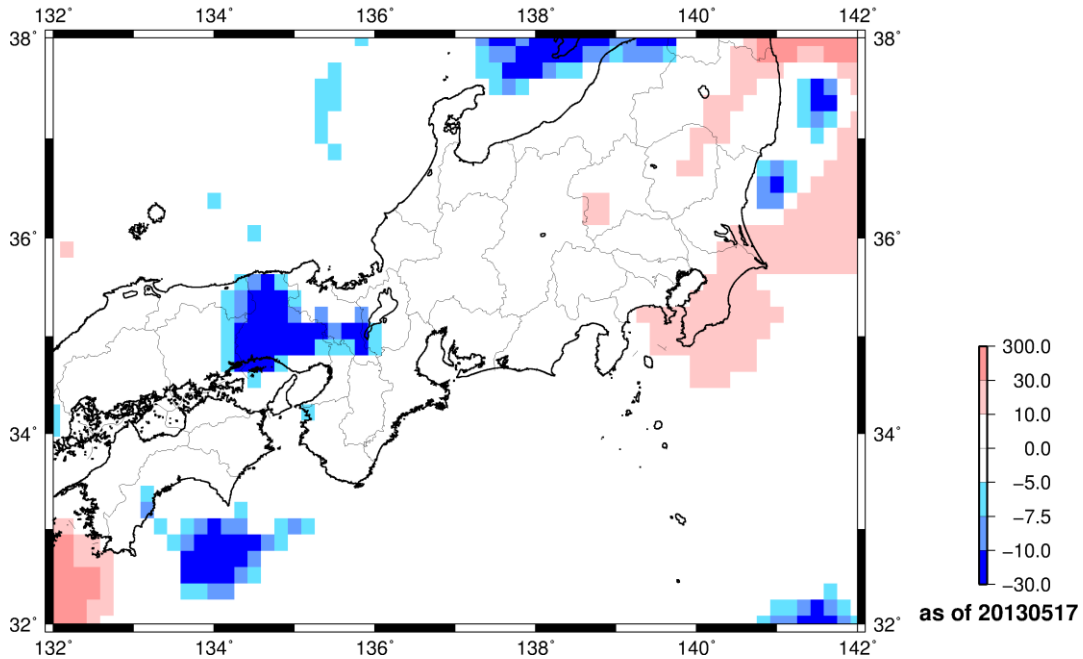


それでは、現在静穏化が消失している京都・兵庫周辺ですが、時間変化を見てみますと、確かに静穏化が消長を繰り返し、現在は消えているのがわかります。

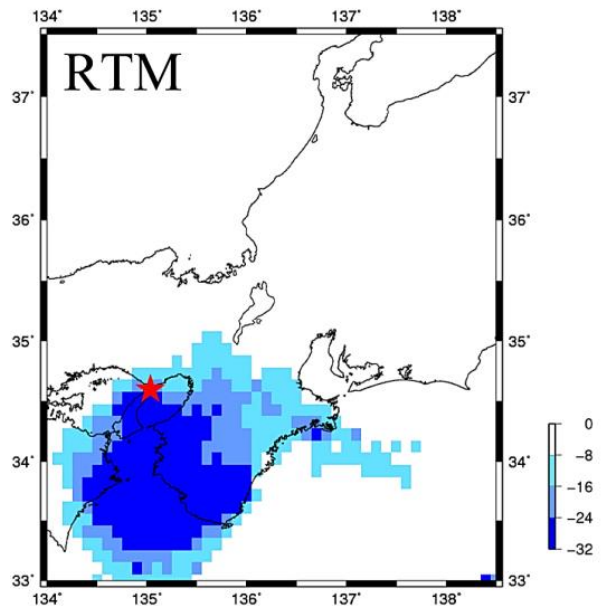


このグラフから、現時点では2013年の半ば（正確には5月17日）に最も値がマイナスとなり、静穏化が進んでいたことが確認できます（赤矢印）。

それでは昨年の5月にはどのような状況であったのでしょうか。実は下の図のような領域で静穏化が進んでいました。はたしてこの異常がどの程度深刻かを阪神大震災の前と比較してみます。



実は阪神大震災前の静穏化（右図）というのは空間的にもより大規模であった事が確認されています。この事から、現時点の京都周辺の静穏化およびその解消状態は十分注意すべきですが、阪神大震災のような壊滅的な地震の危機がすぐに迫っているとは現時点では考えにくい状況であると判断しています。



### 日本地震予知学会が設立されました！

7月16日に一般社団法人「日本地震予知学会」が設立されました。8月1日にプレスリリースが行われる予定です。 <http://www.eqpsj.jp/>